

国家公務員採用総合職試験における英語試験の活用

平成25年12月27日
人 事 院

基本的考え方

行政の国際化の進展を踏まえると、国家公務員採用総合職試験からの採用者が従事する政策の企画立案等の業務の遂行に当たっては、基礎的な英語能力を有していることが望ましい



- 平成27年度の総合職試験から、外部の英語試験を活用
- 政策の企画立案等の業務に従事するために高度の知識、技術又は経験を必要とする総合職試験採用者として必要な英語の基礎的能力を検証

対象となる試験区分

総合職試験(院卒者試験・大卒程度試験)の全ての試験区分

活用する英語試験

TOEFL(iBT)、TOEIC、IELTS、実用英語技能検定(英検)の4種類

活用方法

求めるスコア等と加算点

英語試験のスコア等を有する受験者には、最終合格者決定の際に、スコア等に応じて、総得点に15点又は25点を加算する

	TOEFL (iBT)	TOEIC	IELTS	英検
15点加算	65以上	600以上	5.5以上	—
25点加算	80以上	730以上	6.5以上	準1級以上

※1 平成25年度総合職試験における総得点は、区分により異なるが、最高点は672～838点、合格最低点は492～566点となっており、25点の加算は、合否ライン付近の者にとって総得点の概ね5%程度となる

※2 基礎能力試験における英文理解の出題は、引き続き行う予定

スコア等の有効期間

試験実施年度の4月1日から遡って5年前の日以後に受験したスコア等を有効とする(第2次試験の際に確認することを予定)

活用方法の見直し

導入から3年後を目途に、英語試験導入後の実施状況や大学等における英語教育の推進状況等も考慮した上で、必要な見直しを行うものとする